ICOM

取扱説明書

VHF 無線電話装置

IC–VH35ACT
IC–VH35CTM
IC–VH35MFT

UHF 無線電話装置

IC–UH35ACT
IC–UH35CTM
IC–UH35MFT

この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

Icom Inc.

はじめに

　このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
　本製品は、技術基準適合証明で認定された国内業務用無線電話装置です。
　ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

標準構成品 〈充電器(☞P28～32)は、別売品です。〉

本製品には、下記のものを同梱しています。

- 無線機本体 ……………………………………………… 1
- アンテナ ………………………………………………… 1
- ハンドストラップ …………………………………… 1
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc.、ICOM 、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

使用後はリサイクルへ

この製品は、充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

本製品の概要について

- 本機は携帯用として、設計されたプレストーク方式の複数波業務用無線電話装置です。
  簡易業務用として、
  IC-VH35ACTは、3チャンネルに対応します。
  IC-UH35ACTは、5チャンネルに対応します。
  IC-VH35CTMは、9チャンネルに対応します。
  IC-UH35CTMは、35チャンネルに対応します。
  一般業務用として、
  IC-VH35MFT/IC-UH35MFTは、20チャンネルに対応します。
- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品です。
- 本機は、JIS保護等級7(防浸形)★の防水性能に対応できるよう設計されています。(バッテリーパック装着時に限る)
- 別売品のリチウムイオン電池を装着することにより、軽量で長時間の運用が可能です。

★JIS保護等級7(防浸形)とは、バッテリーパックを正しく装着した状態で水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

海水や砂、泥などが付着したときは？

海水や砂、泥などが無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。
このとき、バッテリーパックは、無線機本体から絶対にはずさないでください。
洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

はじめに

防水性能について

バッテリーパック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172)は、本製品に装着することでJIS保護等級7(防浸形)保証の性能がありますが、完全防水構造ではありません。
下記のような環境で使用すると防水性能を保証できませんのでご注意ください。

- 水深1m以上、または30分間以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、または濡れた手でバッテリーパックやアンテナ、防水形スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥などが無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、歪み、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- バッテリーパックを無線機本体に取り付けないで使用したり、下記に指定する以外の別売品を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- 使用温度範囲からはずれた温度で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散、または薬品にふれるところに放置したとき

■ 別売品の防水性能について
バッテリーパック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172)、短縮アンテナ(FA-S73U)を無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)保証の性能になります。
※接話タイピン型マイクロホン(HM-163)は、JIS保護等級7(防浸形)保証の性能がありますが、マイクロホン部は、防水構造ではありません。
※上記以外の別売品(☞7章)については、防水性能を保証していませんので、ご注意ください。

もくじ

この取扱説明書では、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、設定されている機能について詳しくは、販売店にお尋ねください。

もくじ

4.交信のしかた(つづき)

5.そのほかの機能について ―――― 26

6.充電について ―――― 27

7.別売品について ―――― 36

7.別売品について(つづき)

8.保守について ―――――――― 52

1　安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

▶使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
▶次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■無線機本体について

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
●引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。 引火、火災、爆発の原因になります。	

⚠警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
  交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- **電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。**
  電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。**
  感電、故障の原因になります。
- **アンテナやハンドストラップ、ショルダーストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。**
  本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。**
  すぐに電源を切り、バッテリーパックを取りはずしてください。煙が出なくなるのを確認し、販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■無線機本体について(つづき)

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

- **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
  変形や破損の原因になることがあります。
- **針金などの細い棒でマイクロホン部やスピーカー部の穴に触れないでください。**
  故障の原因になることがあります。
- **無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。**
  落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
- **直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
  変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- **指定以外の別売品を使用しないでください。**
  故障の原因になることがあります。
- **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
  電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- **－10℃～＋60℃以外の環境では使用しないでください。**
  故障の原因になることがあります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
  普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■バッテリーパックについて(別売品)

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での充電はしないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、+60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
バッテリーパックの性能や寿命の低下、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◆バッテリーパックを使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■バッテリーパックについて(つづき)

⚠危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックから漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

⚠警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電やけがの原因になります。

◎電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎指定の充電時間以上、充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎バッテリーパックから漏れ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

◎テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

■バッテリーパックについて(つづき)

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-141A(卓上急速充電器)　：＋10℃～＋40℃
  BC-161(卓上急速充電器)　　：0℃～＋40℃
  BC-121NA(6連急速充電器)：＋10℃～＋40℃
- －10℃～＋60℃以外の環境で使用しないでください。
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- 長期(約1年)間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずして、－20℃～＋25℃の風通しのよい乾いた環境に保管してください。
  3ヶ月間ほど使用しないときは、－20℃～＋35℃の湿気の少ない場所に保管してください。
  1ヶ月間ほど使用しないときは、－20℃～＋40℃の湿気の少ない場所に保管してください。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。

■ 充電器について(別売品)

⚠危険	**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- ACアダプターは、充電器に付属する以外のものを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックは、使用しないでください。
  BP-220L、220N、BP-233、BP-246専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
  また、ご自分で修理しないでください。

■充電器について(別売品)つづき

⚠警告	**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- BC-161は、**5台以上連結して充電しない**でください。
  連結して**充電できるのは、最大4台まで**です。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源コードや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
  すぐにACコンセントから電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意 | 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-141A(卓上急速充電器) ：＋10℃〜＋40℃
  BC-161(卓上急速充電器) ：0℃〜＋40℃
  BC-121NA(6連急速充電器)：＋10℃〜＋40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。

◎直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎充電器を保管するときは、−10℃〜＋60℃で湿気の少ない場所に保管してください。
サビの発生、性能の低下の原因になることがあります。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

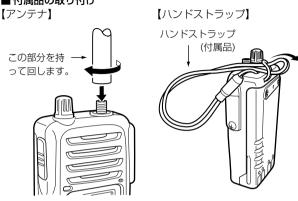
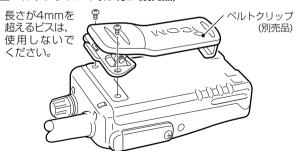
取り扱い上のご注意

- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
- 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
  結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- やや強めの雨の中で運用できますが、雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- 水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
- 充電口や充電端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。
- 磁気カードを無線機に近づけないでください。
  磁気カードの内容が消去されることがあります。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- 本機の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

電 波 法 上 の ご 注 意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した業務用無線電話装置です。これは簡単な手続きにより無線送受信機を使っていただくために定められたもので、無線機本体を容易に分解できない構造になっています。
  ご自分で分解や改造をしないでください。
- 通信は免許状に記載されている範囲内でしてください。
- 特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- 免許の有効期限は、免許を取得した日から5年間です。
  再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前の間に手続きをしてください。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

■付属品の取り付け

【アンテナ】　　　　　　　　　　【ハンドストラップ】

■ベルトクリップの取り付け(別売品)

※ベルトクリップは、タイプ(☞P36)によって、使用できるビスの長さが異なります。
取り付けるときは、お使いのベルトクリップに付属するビスより長いものを使用しないでください。

■バッテリーパックの取り付け(別売品)

①バッテリーパックを本体に密着させながら、[❶]の方向にスライドさせます。

②「カチッ」と音がするまでバッテリーパックをスライドさせると、無線機底面にあるレリーズボタンでロックされます。

★取りはずすときは、レリーズボタンを[❷]の方向に押し下げるとロックがはずれます。

⚠警告

本製品やバッテリーパックが濡れたり汚れた状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

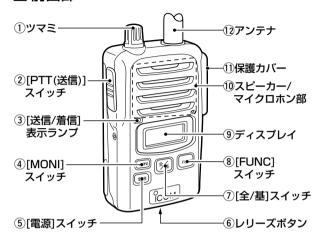
※充電方法については、6章(☞P27〜P35)をご覧ください。

⚠注意

バッテリーパックを取りはずすときは、次のことを守らないと、指や爪を傷めるおそれがあります。

バッテリーパックを取りはずすとき、〈レリーズ〉ボタンの操作は、バッテリーパックを[❶]の方向に軽く押し込んで、〈レリーズ〉ボタンが軽く動く状態になってから、[❷]の方向に操作してください。

3 各部の名称と機能

■ 前面部

① ツマミ

音量の調整をします。
電源投入時の音量レベル設定状態は、前回の交信に使用したレベルが設定されます。
※呼び出し機能が設定されている場合は、表示モードを切り替えると、「通話チャンネル」番号または「個別(相手局)」番号の選択ができます。(☞P19〜22)

② [PTT(送信)]スイッチ

押しつづけると送信状態、手をはなすと受信状態になります。

③ [送信/着信]表示ランプ

送信/受信/着信の状態を示します。

- 送信時は赤色で点灯します。
- 受信時は緑色で点灯します。
- 着信中は橙色で点滅します。

④ [MONI]スイッチ
押すごとに、「ON」と「OFF」を切り替えます。
※通常は使用しませんが、他局が呼び出し機能で交信するのを受信したり、交信相手局の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいときや、ノイズを聞きながら音量調整するときは、「ON」にします。

⑤ [電源]スイッチ
長く押すごとに、電源の「ON」と「OFF」を切り替えます。

⑥ レリーズボタン
バッテリーパックを取り付けたり取りはずしたりするボタンです。

⑦ [全/基]スイッチ
押すごとに、[全体]→[基地]→[個別]の順番に呼び出せる局を切り替えます。
※呼び出し機能が設定されていない場合やデジタルトーンスケルチが設定されている場合は、スイッチ操作は無効になります。

⑧ [FUNC]スイッチ
短く押すごとに、[音量レベル]→[通話チャンネル]→[個別(相手局)番号]の順番に表示を切り替えます。
※長く押すごとに、ロック機能の「ON」と「OFF」が切り替わります。

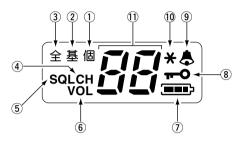
⑨ ディスプレイ
運用状態を表示します。

⑩ スピーカー/マイクロホン部
超小型のスピーカーとマイクロホンを内蔵しています。
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するときは、機能しません。

⑪ 保護カバー
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するコネクターを保護します。
保護カバーをはずすと、接続できます。接続しないときは、保護カバーを付けておきます。

⑫ アンテナ
電波を発射、または受信する部分です。

電源を入れたときや各部のスイッチを操作したとき、約5秒間ディスプレイの照明が点灯します。

■ディスプレイ部

① **個別表示**
呼び出し機能で、相手局を個別に呼び出すとき表示します。

② **基地表示**
呼び出し機能で、基地局を呼び出すとき表示します。

③ **全体表示**
呼び出し機能で、すべての局を呼び出すとき表示します。

④ **CH**
表示する数字が通話チャンネル番号のとき表示します。

⑤ **SQL**
表示する数字がスケルチレベルのとき、点滅します。
点滅中は、スケルチレベルを変更(☞5章)できます。

⑥ **VOL**
表示する数字が音量レベルのとき表示します。

⑦ (電池アイコン)
電池の残量を4段階で表示します。(☞6章)

⑧ (鍵アイコン)
ロック機能(☞5章)の動作中に表示します。

⑨ (ベルアイコン)
不在時など、呼び出しを受けたこと(着信)を点滅で知らせます。

⑩ ✱
コンパンダ機能が設定されているとき表示します。

⑪ **88**
音量レベル(0〜32)を表示します。
※設定により、通話チャンネル番号を表示します。
呼び出し機能が設定されている場合、運用する個別(相手局)番号を表示します。

交信のしかた　4

1 電源を入れる

[**電源**]スイッチを長く(0.5秒以上) 押します。
再度、[**電源**]スイッチを長く押すと電源が切れます。

電源が入ると、ビープ音が「ピッ」と鳴って、「音量レベル」を表示します。このとき、ディスプレイのバックライトが約5秒間点灯します。

「音量レベル」表示

2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎるときは、「音量レベル」を表示した状態で、[**ツマミ**]を回して聞きやすい音量に調整します。

何も音が出ていない状態での調整は、[MONI]スイッチを押して「ザー」という雑音を出してから、この音を聞きながら調整します。再度、[MONI]スイッチを押すと雑音が切れます。

3 相手局の選びかた

呼び出し機能での交信は、あらかじめ呼び出す相手局の[通話チャンネル番号]と[個別(相手局)番号]を選択する必要があります。

■通話チャンネル番号の選びかた

通話チャンネル番号とは、交信する周波数のことです。
交信する全局は、同一チャンネルに設定しておきます。

「音量レベル」表示からの選択

① [FUNC]スイッチを短く押します。

「CH」番号表示

② [ツマミ]を回します。
※5秒以上何も操作しない状態がつづくと、「音量レベル」表示に戻ります。

2チャンネル選択時

※「音量レベル」表示に戻ったときは、もう一度はじめから操作してください。

3 相手局の選びかた(つづき)

■通話チャンネル番号の選びかた(つづき)

「個別(相手局)番号」表示モードからの選択

下記の表示から通話チャンネル番号を選ぶときの操作です。

① **[FUNC]**スイッチを短く2回つづけて押します。

「CH」番号表示

② **[ツマミ]**を回します。
※5秒以上何も操作しない状態がつづくと、「音量レベル」表示に戻ります。

2チャンネル選択時

回す
「ピッピッ」
短く2回押す

※「音量レベル」表示に戻ったときは、[「音量レベル」表示からの選択](☞P19)の操作をしてください。

4

3 相手局の選びかた(つづき)

■個別(相手局)番号について

個別番号とは、呼び出し機能を使って運用するときに、交信する相手を指定するための番号です。
個別番号の選びかたで、次の4通りの呼び出しができます。

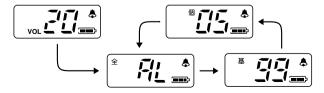
全体呼び出し(AL)→→→→→→→→→→→→
一斉に全局を呼び出す。

基地呼び出し(出荷時の設定：99)→→→
「00」〜「99」のうち基地局に指定された1局を呼び出す。

個別呼び出し(出荷時の設定：00〜10)→
「00」〜「99」のうち選択された1局を呼び出す。

グループ呼び出し(いずれかを表示)→→→
「0ー」〜「9ー」に指定されたグループ局を呼び出す。　(0ー：00〜09の10局)
「ー0」〜「ー9」に指定されたグループ局を呼び出す。(ー0：000〜099の100局)

■全体/基地/個別表示への切り替えかた

[全/基]スイッチを短く押すごとに、図のように切り替わります。

3 相手局の選びかた(つづき)

■個別/グループ呼び出しの選びかた

① **[全/基]**スイッチを短く繰り返して押して、個別またはグループ表示にします。
② **[ツマミ]**を回します。
※5秒以上何も操作しない状態がつづくと、「音量レベル」表示に戻ります。

4 呼び出しをする

[PTT]スイッチを押すと、送信/着信表示ランプが赤色に点灯します。**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって
『**こちらは××局です。**
○○さんどうぞ。』
と呼びかけたら、**[PTT]**スイッチをはなします。

送信/着信表示ランプが赤色に点灯　マイク部

呼び出し機能が設定されていると、**[PTT]**スイッチを押したとき、“ピピッ”と鳴ります。

■アンサーバック機能(※35ACT/CTMの「3桁設定(呼出コード)」以外に該当)
互いの無線機に設定されていると、受信していない状態で**[PTT]**スイッチを短く押したとき、相手局が通話圏内のときは、1回だけ“ピッ”(圏内ビープ)と鳴って、送信/着信表示ランプを1回だけ緑色で点滅させます。

4

5 呼び出しを受ける

呼び出しを受けると、相手局の個別番号をディスプレイ部に点滅表示します。
※ACT/CTM仕様では、呼び出しコードが「3桁設定」のときは、「- -」を表示します。
その状態で**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって
**『こちらは○○局です。
××さんどうぞ。』**
と応答します。

🔔表示を点滅させることで、無線機からはなれていても呼び出しを受けたことを知らせます。
[PTT]または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅を停止できます。
※点滅を停止させるまで、[ツマミ]の操作はできません。

■ ポケットビープ
ポケットビープが設定されていると、呼び出しを受けたとき、ビープ音を鳴らすことができます。**[PTT]**または**[全/基]**スイッチを押すと、途中で停止できます。また、相手局から「全体」または「グループ」で呼び出しを受けたときは、ポケットビープは鳴らさずに右図の表示だけで知らせます。

■ 着信表示
着信表示が設定されていると、呼び出しを受けたとき、送信/着信表示ランプを橙色に点滅します。
[PTT]または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅を停止できます。

6 交信する

交信は交互にします。

- 双方同時に送信しても、交信できません。
- 送信の終わりに『どうぞ』をつけ加えると、会話がスムーズに運びます。

交信中は、「個」または「基」表示を点滅します。
点灯表示に戻ったとき**[PTT]**スイッチを押すと、再度相手局を呼び出します。
また、「CH」番号表示で呼び出しをした場合、交信中は、「CH」表示を点滅します。
※交信(表示点滅)中は、[ツマミ]の操作はできません。

個別呼び出しで交信中

「CH」番号表示で交信中

■ 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。
用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】		**【応答をするとき】**
「相手局の呼び出し名称」	：3回以下	3回以下
「こちらは」	：1回	1回
「自局の呼び出し名称」	：3回以下	1回
「どうぞ」	：1回	1回

■交信時のアドバイス

1.マイクロホンの使いかた

- マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を5cmくらいはなし、ふつうに話す大きさの声で話します。
あまり大きな声で話すと、かえって明瞭度が悪くなります。
- デジタルトーンスケルチ運用時は、[PTT](送信)スイッチを押すと“ピピッ”というモニター音が鳴ります。
そのあとマイクロホンに向かって話してください。

2.個別呼び出しについて

個別呼び出しをするときは、[通話チャンネル番号]と[個別番号]を相手局と同じにしないと個別呼び出しできません。

3.相手局から応答がないときは

呼び出し機能を使用して基地または個別呼び出しをしたあと、[PTT]スイッチをはなすと、相手局の番号を数秒間だけ点滅表示します。

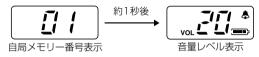
相手の無線機が電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、点滅表示が点灯に替わってから、再度[PTT]スイッチを押すと、何回でも呼び出しをすることができます。
なお、相手が無線機からはなれていたなど、圏内ビープは鳴ったが相手から応答がない場合で、交信中の点滅表示が継続中はつづけて呼び出しすることができません。

4.交信する場所について

周囲の状況(天候、建物や山の陰など)により、受信しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作することがありますので、はなれてご使用ください。

そのほかの機能について　5

1.自局メモリー番号表示機能

呼び出し機能が設定されていると、電源投入直後の約1秒間、この無線機の自局メモリー番号をディスプレイ部に表示します。

2.ロック機能について

不用意に**[全/基]**スイッチや**[FUNC]**スイッチ、**[ツマミ]**にふれても、個別番号や表示が変わらないようにする機能です。
[FUNC]スイッチを長く押すと“ピッピピッ”と鳴って、[🔑]をディスプレイ部に表示します。
再度、同じ操作で解除します。
それ以外のスイッチは、ロックされていても操作できます。

3.スケルチレベルを変更するには

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチが動作するレベルを無線機本体で選択できます。
レベルは、00(浅い)～64(深い)の範囲で選択できます。

《選択のしかた》

①**[FUNC]**スイッチを押しながら、**[電源]**スイッチを押します。
②“ピッ”と鳴ったら**[電源]**スイッチだけをはなします。
- ディスプレイ部には、何も表示しない状態になります。

③**[FUNC]**スイッチを素早く押し直して、はなします。
- セットモードに移行して、スケルチレベルを表示します。

SQL 10

④**[ツマミ]**を回して、レベルを選択します。
※選択後、**[MONI]**スイッチを押すと、出荷時のスケルチレベル表示に戻ります。
※選択後、セットモードでは、受信できませんので、**[電源]**スイッチを入れ直して受信状態を確認してください。
⑤**[電源]**スイッチを押して電源を切ります。

6 充電について

■ 安全な充電のために

⚠危険

- 充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
- 指定(BP-220L/220N/233/246)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- 「安全上のご注意」(☞P1～12)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

⚠注意

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れた状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子にサビが発生して、故障の原因になります。

■ バッテリーパックの残量表示について

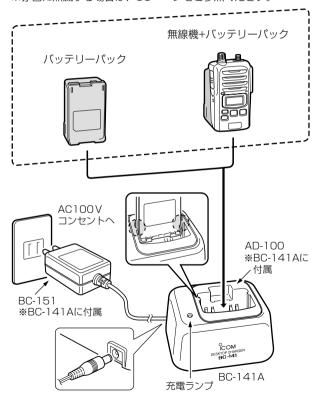
ディスプレイ部の 表示は、バッテリーパックの残量に応じて変化します。

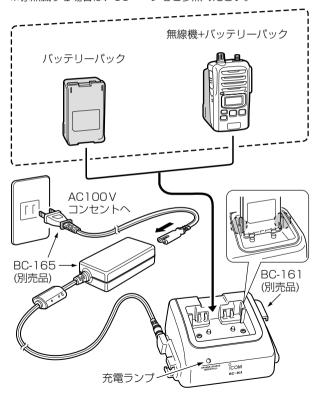
表 示	バ ッ テ リ ー パ ッ ク の 状 態
	十分に容量があります。
	充電する時期です。(短時間の運用は可能)
	すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。
点滅	ほとんど容量がなく、表示点滅と警告音で知らせます。

■ バッテリーパックの残量警告音について

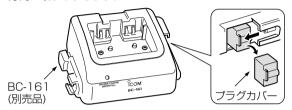
バッテリーパックの残量表示が 点滅 表示になると、警告音が**「ピーピーピー」**と、30秒ごとに鳴ります。
警告音が鳴り出したら、すぐに充電をしてください。
※警告音が鳴った状態でご使用をつづけられますと、警告音が**「ピーピッピッピッ・・・」**と5秒間鳴りつづけたあと、無線機の電源を自動的に切ります。

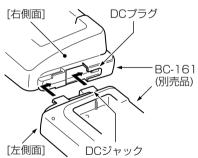
■BC-141A(卓上急速充電器)：充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。
充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。
※赤色に点滅する場合は、53ページをご参照ください。

■BC-161(卓上急速充電器)：充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。
※赤点滅する場合は、53ページをご参照ください。

■BC-161の連結充電について

充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

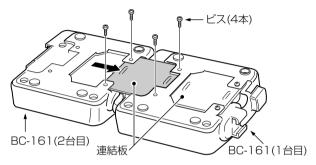
① 充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。

② 右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161(左側面)にあるDCジャックを**「カチッ」**と音がするまで差し込みます。

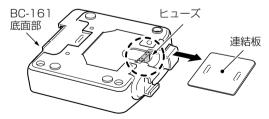
(手順③☞次ページへ)

⚠警告

充電器は、5台以上連結して充電しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
※連結して充電できるのは、最大4台までです。

6

■BC-161の連結充電について(つづき)

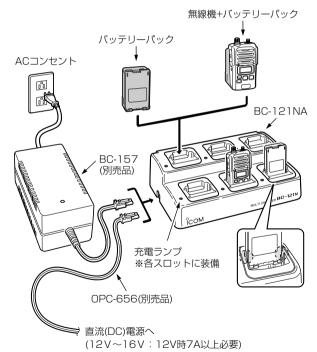
③ 底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するビス(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器の方に移動させます。
取りはずしたビス(2本)と充電器に付属のビス(2本)で連結板を固定します。

■BC-161のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。

■BC-121NA(6連急速充電器)：充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※赤色に点滅する場合は、53ページをご参照ください。

※BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。

6 充電について

■正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
電源を切らない場合、充電が完了しません。

- お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
  なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
  充電器は、次の環境でご使用ください。
  BC-141A(卓上急速充電器)　：＋10℃～+40℃
  BC-161(卓上急速充電器)　　：0℃～+40℃
  BC-121NA(6連急速充電器)：＋10℃～+40℃
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりますが、約300回です。
  指定時間充電しても、数分後にディスプレイ部の残量表示が変化する(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。

■バッテリーパックの名称と定格について(別売品)

名称 / 定格項目	BP-220N	BP-220L	BP-233	BP-246
電池の種類	リチウムイオン			
電池の容量	2800mAh		1800mAh	1700mAh
出力電圧	7.4V			7.2V
寸法 (幅×高さ×奥行)	56×91×21.9	56×91×21.3		56×91×15.2
	＜条件＞突起物は含まず/＜単位＞ mm			
運用時間 1W機	約24時間		約15時間	約14時間
運用時間 5W機	約17時間		約10時間	約 9時間
運用時間	＜条件＞送信 5、受信 5、待ち受け 90 の割合で、繰り返し運用			
充電時間	約4.0時間	約3.5時間	約2.5時間	
	＜条件＞BC-141A、BC-161、BC-121NAを使用時			

※BP-220L/220N/233/246は、完全防水構造ではありません。
本製品に装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。

※バッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 急速充電器の定格について(別売品)

〈BC-141A卓上急速充電器〉

- **名　　　　称**：BC-141A卓上急速充電器(AD-100付属)
- **定格入力電圧**：AC100V(50/60Hz) ※BC-151入力電圧
- **使用温度範囲**：＋10℃～＋40℃
- **保存温度範囲**：－20℃～＋60℃
- **重　　　　量**：約380g(BC-151、AD-100を含む)
- **寸　　　　法**：115(W)×60(H)×103(D)mm

〈BC-161卓上急速充電器〉

- **名　　　　称**：BC-161卓上急速充電器(AD-112付属)
- **定格入力電圧**：AC100V(50/60Hz) ※BC-165入力電圧
- **使用温度範囲**：0℃～＋40℃
- **保存温度範囲**：－10℃～＋70℃
- **重　　　　量**：約225g
- **寸　　　　法**：122.5(W)×59.7(H)×95(D)mm

※定格･仕様･外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。
※BC-121NAについては、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

別売品について　7

■ 別売品リスト

[★]印のものは、無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)保証の防水性能に適合します。

バッテリー関係

- BP-220L★：リチウムイオンバッテリーパック(Lサイズ)
- BP-220N★：リチウムイオンバッテリーパック(Lサイズ)
- BP-233★：リチウムイオンバッテリーパック(Lサイズ)
- BP-246★：リチウムイオンバッテリーパック(Mサイズ)
- BP-221：緊急用乾電池ケース(単3型アルカリ乾電池×5本)

急速充電器/電源関係

- BC-161：卓上急速充電器
- BC-165：ACアダプター(BC-161用の電源)
- BC-141A：卓上急速充電器(ACアダプター、AD-100付属)
- BC-121NA：6連急速充電器(BC-157/OPC-656別売、AD-100付属)
- BC-157：ACアダプター(BC-121NA用)
- OPC-656：DC電源ケーブル(BC-121NA用)

腰にかける

- MB-86：回転式ベルトクリップ
- MB-97：ベルトクリップ(ステンレス製)
- MB-98：ベルトクリップ

肩にかける

- MB-57L：ショルダーストラップ(LC-153/LC-154用)
- MB-80：ショルダーストラップ(BP-220L/220N/221/233/246用)

無線機を保護する

- LC-153：ハードケースS(BP-246用)
  ※LC-164：装着した状態でスイッチ操作と充電が可能
- LC-154：ハードケースL(BP-220L/220N/221/233用)
  ※LC-166：装着した状態でスイッチ操作と充電が可能

■別売品リスト(つづき)

スピーカーマイク関係

- **EM-80** ：スピーカーマイク
- **HM-130★** ：防水形スピーカーマイク
- **HM-172★** ：防水形スピーカーマイク
- **HM-139** ：小型スピーカーマイク
  ※**HM-139S**：HM-139のショートケーブル仕様

マイクロホン/ヘッドセット関係

- **HM-104** ：単一指向性タイピン型マイクロホン
- **HM-104A**：無指向性タイピン型マイクロホン
- **HM-109** ：接話タイピン型マイクロホン
  ※**HM-163**：HM-109のコネクター部分だけが防水仕様
- **HM-147** ：骨伝導マイク(TEMCO製)
- **HS-86** ：ヘルメット取り付け型ヘッドセット
- **HS-88** ：ヘッドセット
- **HS-92** ：ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
- **OPC-636** ：マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
  ※**OPC-637**：OPC-636のスイッチがアンロック仕様

イ ヤ ホ ン 関 係

- **EH-13** ：耳掛け型イヤホン(プラグ：2.5φ)
- **EH-14** ：オープンエアー型イヤホン(プラグ：2.5φ)
- **EH-15** ：イヤホン(プラグ：2.5φ)
- **SP-16** ：イヤホン(プラグ：3.5φ、AD-52用)

ス ピ ー カ ー 関 係

- **EH-11** ：イヤーパッド型スピーカー(プラグ：2.5φ)
- **EH-12** ：ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ：2.5φ)

変換アダプター/アンテナ関係

- **AD-52** ：イヤホンジャックアダプター(ジャック：3.5φ)
- **FA-S73U★**：IC-UH35ACT/CTM用防水形短縮アンテナ

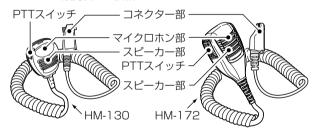
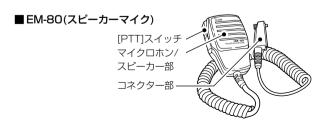
■別売品を接続するには

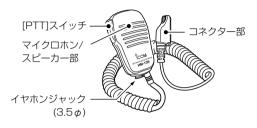
端子保護のため、必要がないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

①市販のドライバーを用意します。
②無線機の側面側にある保護カバー固定用のビス(1本)をゆるめます。
③保護カバーをはずします。

■HM-130/HM-172★(防水形スピーカーマイク)

JIS保護等級7(防浸形)保証の防水性能があります。
★HM-172をご使用いただくには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

■EM-80(スピーカーマイク)

■HM-139/HM-139S(小型スピーカーマイク)

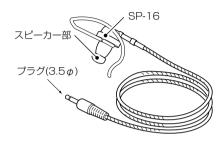
※HM-139Sのケーブルは、無線機を肩に固定して、マイクを胸ポケットに入れてご使用になるとき、便利な長さです。

■AD-52(イヤホンジャックアダプター)

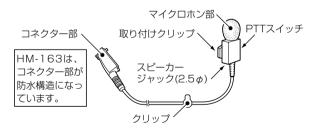
別売品のSP-16と組み合わせてご使用になれます。

また、市販品のイヤホン(プラグ：3.5φ)と組み合わせてご使用になれます。

※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。

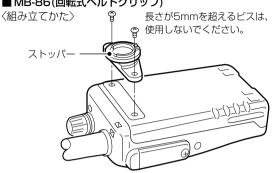
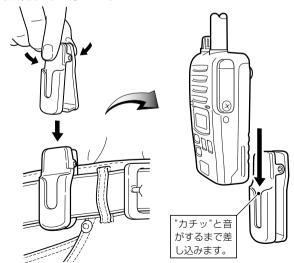
■SP-16(耳掛け型イヤホン)

別売品のAD-52と組み合わせてご使用になれます。
どちらの耳でも使用できます。

■HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン)

別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

■FA-S73U(IC-UH35ACT/CTM用防水形短縮アンテナ)

無線機に取り付けることで、無線機本体の
防水性能に適合します。

■MB-86(回転式ベルトクリップ)

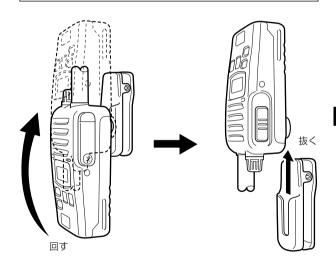
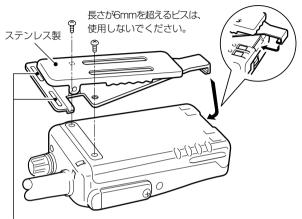
〈組み立てかた〉

〈無線機の取り付けかた〉

■MB-86(回転式ベルトクリップ)つづき

〈無線機のはずしかた〉

ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

⚠注意

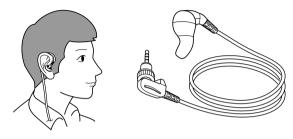
ストッパーの破損にご注意ください。

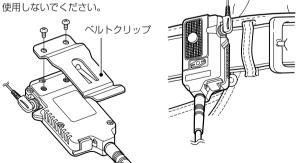
落としたり、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。

■MB-97(ベルトクリップ)

MB-57L(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

⚠注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■HM-147(骨伝導マイク)

ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。
使いかたは、HM-147に付属の取扱説明書をご覧ください。

[ボイスデューサー　イヤーマイクレシーバー]

〈ベルトクリップの取り付け〉

[ボイスデューサー　インターフェイス]

■OPC-636/OPC-637(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)

別売品のHS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを接続してご使用になれます。

〈OPC-636の場合〉

赤色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

- ：押しているあいだだけ送話する
- ：はなすと送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれているときは使用できません。

- ：押し込む(入)と送話する
- ：出ている(出)と送話を一時中断する

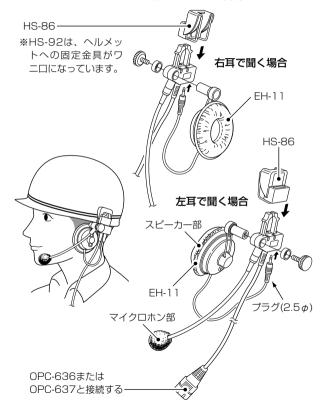
〈OPC-637の場合〉

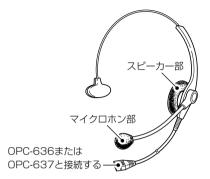
黒色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

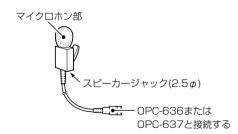
- ：押しているあいだだけ送話する
- ：はなすと送話を中断する

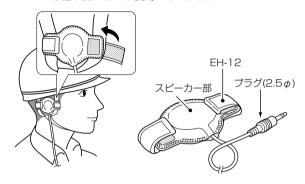
■HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と EH-11(イヤーパット型スピーカー)の組み立て

別売品のOPC-636、OPC-637および、EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

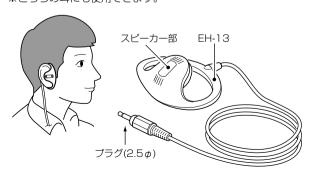
7 別売品について

■HS-88(ヘッドセット)

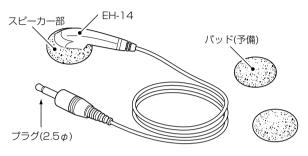
別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。

■HM-104/HM-104A(単一指向性/無指向性タイピン型マイクロホン)

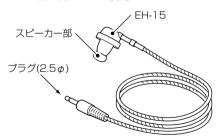
別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。
スピーカージャックには、別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15が必要です。

■EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

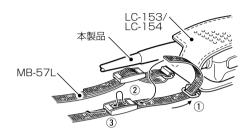
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■EH-13(耳掛け型イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。
※どちらの耳にも使用できます。

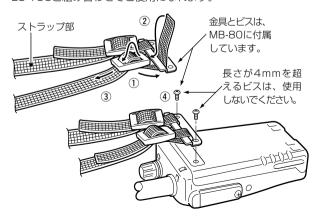
7 別売品について

■EH-14(オープンエアー型イヤホン)

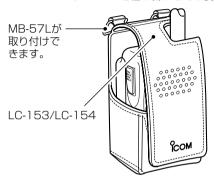
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■EH-15(イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け

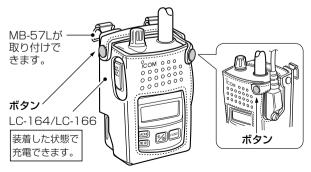
下図(①～③)の順に取り付けます。
別売品のLC-153、LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。

■MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①～④)の順に取り付けます。
ストラップ部(MB-57L)は、別売品のLC-153、LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。

7 別売品について

■LC-153/LC-154(ハードケースS/ハードケースL)

別売品のBP-246にはLC-153、別売品のBP-220L/220N/221/233にはLC-154と組み合わせてご使用になれます。

■LC-164/LC-166(ハードケースS/ハードケースL)

別売品のBP-246にはLC-164、別売品のBP-220L/220N/221/233にはLC-166と組み合わせてご使用になれます。

保守について　8

Ⓐ 日常の保守と点検について

- 無線機本体の電池端子、バッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、電源が入らないことや正常に充電できないことがあるので、定期的にお手入れしてください。
- ふだんのお手入れは、やわらかい布をご使用ください。
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
シンナーやベンジンなどは、絶対に使用しないでください。
- 使用される前(業務の開始前)に、バッテリーパックの残容量が十分あるか、ディスプレイ部の残量表示を確認してください。
また、バッテリーパック、アンテナ等がしっかりと接続されているか、またゆるみがないか点検してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- 音量が最小に調整されていないか、ディスプレイ部の音量レベル表示を確認してください。

Ⓑ 防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、JIS保護等級7(防浸形)を保証(ご購入より1年間)している無線機です。
この防水性能を維持するためにも、定期点検(年1回)の実施をおすすめします。
また、防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。
これらの定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
弊社各営業所のお問い合わせ先は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

Ⓒ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現象〉[電源]スイッチを押しても電源が入らない

〈確認〉バッテリーパックの容量や、バッテリーパックと無線機本体との接触状態を確認してください。
接触不良のときは、電源装着部を清掃してください。

〈確認〉バッテリーパックの過放電保護回路が動作している可能性があります。
無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着して電源を確認してください。

〈現象〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる

〈確認〉無線機の電源を入れた状態で充電していないことを確認してください。
無線機の電源を切っても赤色点滅になる場合は、バッテリーパックの故障または寿命です。
お買い上げの販売店または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

〈現象〉ディスプレイ部の表示が変化しない

〈確認〉ロック機能が設定されていないかを確認してください。

〈現象〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈確認〉ディスプレイ部の音量レベル表示で、音量が最小に調整されていないかを確認してください。
それでも音が聞こえないときは、なるべく音量レベルを低くしてから[MONI]スイッチを押したあと、[ツマミ]を回しながら音量を確認してください。

D 故障のときは

● **保証書について**

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**

「故障かな?と思ったら」(☞P53)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● **弊社製品のお問い合わせ先について**

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社　サポートセンター
06-6792-4949(平日 9:00〜12:00、13:00〜17:00)
電子メール:support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ:http://www.icom.co.jp/

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

高品質がテーマです。

A-6248H-1J-⑩
Printed in Japan

この印刷物は環境にやさしい再生紙と
植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32